

委員のリードで進む目標地図作り

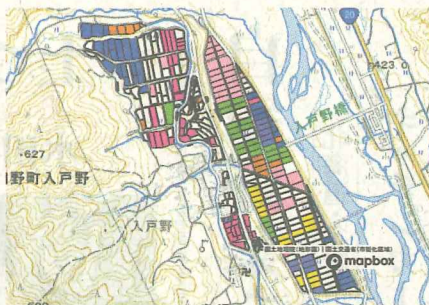
韮崎市農業委員会(柳本進会長)は、地域農業の未来設計図となる各地区の目標地図作りをけん引する。農業委員・農地利用最適化推進委員たちがこそ把握している「地域の実情」や「担い手の思い」などを踏まえ、目標地図の素案作成を進める。

山梨 韮崎市農業委員会

地域の実情踏まえて推進

事前の意向調査などが奏功

県北西部に位置する韮崎市。南アルプスやハケ岳から流れ出る清冽な水、桃、穂坂のブドウなど、丘陵部での果樹栽培も盛んな農業地帯だ。



入戸野地区の目標地図



入戸野地区の話し合い(上)や目標地図の素案作成(下)では各委員がけん引



農地の貸借調整し集約化へ

地権者とも踏み込んだ話し合い

入戸野地区の農業委員・推進委員は、自ら高齢農家から農作業を受託することがあり、実際に作業をしてみると作業効率

同市農政部局では市域を自治会単位に分け、地域計画の策定を進めている。中でも水田地帯の入戸野地区では2023年11月、話し合いのうえ目標地図の素案が作成された。

同地区は、人・農地プランを实质化した際に、地域の担い手が主体となった「入戸野農業の未来を考える会」を立ち上げ

とがある。委員が一步踏み込んで今後どのようにしていきたいかを聞き取ることで、農地の貸借が進むことがある」とい

農業委員の深澤博文さん(60)は「農地の貸借で一番難しいのが賃料の設定だが、そのような時に地区の現状を把握し、農地の貸借に精通している委員が間に入り調整することで、貸借が円滑に進むことがある」と話す。

農業委員会の山本弘行さん(68)は「高齢の耕作者は農地を誰かに貸したいと考えてはいるが、実際に貸すための行動をとることができないこ

た。地域農業の現状や課題についての話し合いや、意向把握のためのアンケート調査が実施済みだったことなどが功を奏し、早期の目標地図作成につながった。

同地区の話し合いの場では、農業委員・推進委員が担い手と地権者、農政部局との間に入り調整役を担当。また、目標地図の素案の作成時には地区の地形や水路の位置、担い手の意向を確認するとともに、農地の集積・集約化も調整するなど、素案作成をけん引した。